

アクションリサーチによる片浜小学校利活用の実現

- 片浜小学校の新しい利活用のための仕組みづくり -

1. 概要

1-1 提案背景

本提案は 2016 年度に廃校となる片浜小学校校舎の利活用を円滑かつ効果的に行うことを目的としている。改修後の校舎を行政から独立して運営するために、地域住民の当事者意識を喚起しながらも市民主体の改修計画を実現する必要がある。そこで、牧之原市内外の有志メンバー 12 名から構成される『カタハマ・エージェント』を立ち上げ、アクションリサーチを改修計画の協議に応用した。本提案に広く多様な意見を取り込むために、カタハマ・エージェントによる活動実績・活動方針を纏め上げ COG に提出する。

1-2 提案概要

アクションリサーチ（利用者と有識者を往復しながら意見調整を行う手法）を用いて [カタハマ・エージェント]-[地域住民] の間で意見調整を行う。そうすることで、両者の視点をコラボレーションさせるような仕組みを考えた。

小学校を利活用するにあたり、「何を、どのように作るか？誰が、どう運営するか？」といった項目を明確にしなければならない。COG をきっかけに集まった有志 12 名（建築や経済の有識者、地域住民の代表、牧之原市・政策協働部職員など）により、利活用の方針を協議する専門チーム『カタハマ・エージェント』が立ち上がった。

さらに、専門的・戦略的な意見だけでなく利用者や地域住民の意見を取り入れることで改修後の施設が地域固有の財産になると考え、アクションリサーチを用いることにした。

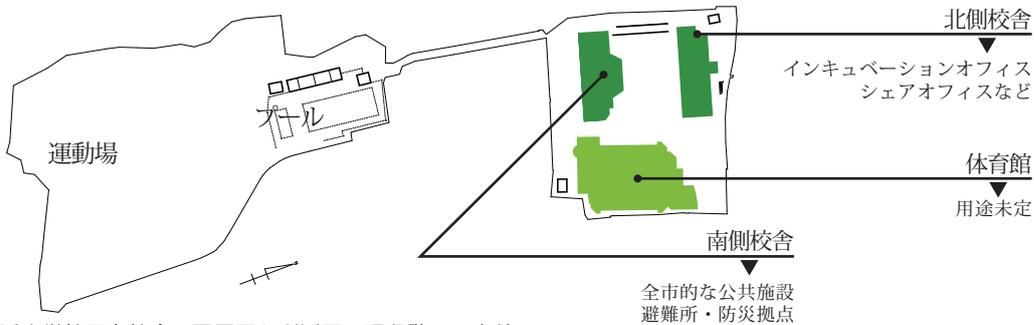


図 1. 片浜小学校既存校舎の配置図と利活用の現段階での方針

<一般的な改修プロセスの場合> 市民からの意見回収と有識者の運営計画、設計提案が一方通行である。



<アクションリサーチの場合> 市民と有識者の間で意見が反復し、設計提案をアップデートすることができる。

